

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572608479		
法人名	株式会社 大曲仙北介護支援事業所		
事業所名	グループホーム ほほえみの家		
所在地	秋田県大仙市戸地谷字川前209番地2		
自己評価作成日	令和2年10月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和2年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者が心穏やかな日々を過ごしていくことができるよう、家庭的であたたかな雰囲気大切にしている。行事(誕生日会)でご利用者に役割をお願いし、お互いに関わりそして支え合うことで、安心感を持つことができるよう支援している。毎月ご家族へご利用者の近況報告を行い、受診報告、行事での様子、そして毎日の過ごし方等お伝えし、必要時は協力をいただくことができるよう共に支える気持ちを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者に関わる時間を大切に一人ひとりの個性を理解し、その人に合わせて接することで意向の把握に繋がり、日々のケアに活かされています。職員は忙しい中、入院中の利用者の家族へ心のこもった手紙を送付したり、家族に送付する通信は状況報告にとどまらず、ホームでの暮らしの様子を報告しながら職員との会話の一コマを紹介して職員の思いを伝え、家族とも良い関係を構築するための努力をしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をホール、廊下、事務所等に掲示し常に意識できるようにしている。新任の職員へも理念の意義と内容を説明し、共有し実践できるようにしている。	会議の際に管理者が共有の機会として話し、職員は利用者主体のケアとなることを念頭に置き、理念の実践に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で地域代表として町内会長に出席していただいている。新型コロナウイルス感染症の影響で日常的な交流は控えており、ボランティアの定期訪問も現在は休止している。	町内行事のない地域であり、運営推進会議のメンバーである町内会長を通じて交流を働きかけています。コロナ禍により、法人本部の意向で外部との接触を禁止しており、ボランティアとの交流ができない状況です。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	「認知症なんでも相談所」を開設し、相談対応できるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者状況や行事、活動状況等を報告し、利用者、家族、地域代表、行政等の方からご意見やご要望を伺いサービスの向上に活かしている。今年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、文書による開催としている。	事前に会議メンバーに資料を送付して意見をいただいた上で報告書を作成し、郵送しています。書面上の開催ではあるものの、メンバーからの意見を運営に反映できるよう取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では行事等の活動報告の他に、事業所で発生した事故報告を行い、実情を積極的に伝えている。福祉事務所職員とは電話連絡等で情報提供を行い、協力関係を築くようしている。	運営推進会議の担当者からは毎回コメントをいただいています。行政からメールで情報が発信されている他、相談事項に対応していただく等、協力関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを常置し、正しく理解できるようにしている。研修を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内部研修で学習することで業務の振り返りに繋がっており、身体拘束の理解に繋がっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを常置している。研修を行い日頃のケアを見直すことができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して利用している利用者がいないため制度に触れる機会がありませんが、必要性に応じて活用し支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時にホームの概要、サービスの内容、対応等を書面と口頭で十分に説明し、理解と納得を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との電話等の時に意向の確認をしている。業務日誌にご家族との連絡等の記載欄があり、全職員が内容を把握できるようにしている。運営推進会議へご家族代表で参加していただき、意見が反映できるようにしている。	新型コロナウイルス感染防止のため、面会禁止となっておりますが、電話を通じてコミュニケーションを図っています。介護計画の見直しの際にも家族に評価していただき、日々のケアに反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は月初めに法人の管理者会議に出席している。後日スタッフ会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。欠席の職員からは事前に意見や提案をシートに記入し提出してもらい、会議の場で反映できるようにしている。	職員の意見を反映させる体制があり、管理者会議を通じて法人本部に伝えられ、環境改善等に繋げています。法人内の管理者のみの会議も設けられています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々と面談を行い、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は研修への積極的な参加を推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や介護フォーラム等を行い、同業者と交流する機会をつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前調査等で情報収集を行い、ご本人が困っていること、不安なこと、要望等を聞き、それをもとに支援方法を決めている。入居後は状態を見ていきながら会話を増やし、一人ひとりと信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の見学や利用申し込みの際、ご家族の意向を聞き相談できるよう努めている。事前調査をもとに職員間で情報共有を行い、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	空間を共有し、何気ない日々の会話を大切にし、穏やかな気持ちで暮らしていくことができるよう努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月初めにご家族へご利用者ごとの近況報告を郵送している。日常の良い部分だけを伝えるのではなく、サービスを提供する上で困難な状況も伝え、協力をいただきながら共にご本人を支えていく関係を築いている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方のご家族から電話が来た際は、ご本人が居室でゆっくりと会話ができるよう配慮している。ご本人との会話を通じ、馴染みの場所の把握に努めているが、新型コロナウイルス感染症の影響で面会・外出は制限している。	通常は家族やボランティアの訪問で関係性が保てるよう取り組んでいる他、普段の会話の中から本人にとって馴染みの場所等を把握して支援に繋げていけるよう努めています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の相性や個々の状況を配慮し、行事では役割を持っていただき、お互いに関わることができるようにしている。ホールの座席についても、和やかな雰囲気でごせるように調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もこれまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの日頃の様子をよく観察し、会話の中から希望や意向が把握できるようにしている。表出されない思いは、日常の関わり合いから拾い出せるよう、職員間で情報の共有に努めている。	利用者が思いを伝えやすい状況を職員は心得ており、特に職員と二人きりで話せる機会を大切に本人の話を十分に聞き、思いを汲み取って職員間で情報を共有し、記録にも残しています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期の面談時の情報をもとに把握している。ご家族との電話や病院受診同行の際等、会話の中から新たな情報が得られるよう努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に各用紙に記録している。一日の過ごし方、心身状態等を申し送りにて把握できるように努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録(ケース記録、身体状況確認表等)を資料とし会話の中から得たご本人の意向やご家族からの情報を取り入れて、現状に即した介護計画を作成している。またモニタリングを行い、ケアカンファレンスで話し合いをしている。	事前に本人、家族から意見を聞き取り、カンファレンスを経て介護計画を作成しています。カンファレンスに参加できない職員の意見は事前シートで現状を確認しており、全職員で介護計画の立案に取り組んでいます。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケース記録に記入している。身体状況確認表や業務日誌、スタッフノート、申し送りを活用し、職員間で情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の意向や必要性に応じて、ご近所（隣家）、行政、医療機関と協働し、安全で豊かに暮らしていくことができるよう支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約前にかかりつけ医について説明を行い、了解を得ている。入居後しばらくは前のかかりつけ医に診ていただいた利用者もいる。必要時は状態報告を行い、指示やアドバイスをいただいている。かかりつけ薬局とは薬の変更等があるとすぐに連絡できる体制になっている。	内科に関しては協力医で受診しており、他科の診療に関しては入居前からの医療機関で継続して受診できるよう支援しています。受診には職員が付き添い、家族に受診結果を報告しています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝の申し送りに参加し、身体状況や受診内容、日々の様子等の情報を伝えている。体調の変化時は相談や報告を行い、適切な受診ができるよう支援している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に情報提供を行っている。医療機関、家族と話しができる機会を調整しながら、状態の把握に努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化対応に関する指針」「終末期ケアに関する指針」について、事業所でできることを十分に説明し方針を共有している。利用者の状態に応じ、必要時は関係者で話し合い、家族の意向を確認する機会を設けている。	医師の協力が得られないため、終末期の対応ができないことを説明しています。状況に応じて家族、関係者と話し合っ対応を検討し、ホームの取り組みに理解が得られています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、全職員が周知できるようにしている。看護師から助言をいただき、日頃から実践できるようにしている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い災害への意識を高めている。ご近所（隣家）と協力できる体制を築いている。	日中、夜間を想定した訓練を年2回実施し、隣家の協力も得られています。	運営推進会議を通じて災害時の協力体制の強化を図る取り組みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者それぞれに合わせ、個々に応じた声掛けを行っている。声のトーンにも気をつけ、穏やかに接している。	利用者の個性を尊重し、その人の職歴にも配慮して利用者それぞれに合わせて接し方を工夫し、声をかけるときの呼び名を名字にしたり名前にしたりしています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者との会話の中で、思いや希望を表したりできるように工夫している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活ペースを大切にし、それぞれが楽しく過ごすことができるように努めている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみが乱れている時は、その都度さりげなく声掛けや介助している。行事の際は女性利用者がおしゃれを楽しむことができるよう、化粧品を準備している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会は誕生者に昼食メニューをリクエストしていただき、希望に添えるようにしている。カップ拭き、ふきんたたみ等状況に応じて行っている。	調理に参加できる方はいなくなりましたが、野菜の下処理や茶わん拭き等の座ってできることを手伝っていただき、職員が見守りながら一緒に食事をしています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全職員が常に把握できるよう、チェック表を使用している。また適度に声掛けを行い、摂取していただけるように努めている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けや誘導、確認を行っている。磨き残し、義歯洗浄の介助が必要なご利用者にはそれぞれ対応し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、場面に応じた声掛け、誘導を行っている。気持ちとプライバシーに十分配慮して介助している。誘導の声掛けに拒否感のあるご利用者には、少し時間を置く等、工夫し対応している。	排泄用品が必要な方には費用負担の軽減に努め、布パンツのみの方は状態が維持できるようにチェック表で確認しながら一人ひとりのパターンを把握した支援が行われています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分摂取の確認を行い、状況に応じて飲食物の工夫を行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の健康状態を把握し、希望に添えるよう努めている。浴槽に入りたくないご利用者へは、シャワー浴で対応している。心身ともにリラックスできるよう、個々にそった支援に努めている。	季節によって時間をずらし、浴槽に入りたくない方、拒否する方それぞれの希望や思いに沿いながら週2回の入浴を確保しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に軽運動やレクリエーションを取り入れ、適度な活動を行い夜間の安眠へつなげている。ご本人の様子を確認しながら適度な休息を促している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書で確認を行い、変更等の場合は薬剤師から電話連絡を受けている。受診後は受診記録に医師や看護師からの注意点を確実に記入するようにしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、居室や廊下の拭き掃除等出来ることは見守りや一緒に行いながら続けている。歌を歌うことが好きなご利用者が多いため、カラオケを楽しむ等気分転換できるようにしている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせ、見学地へ出かけられるよう支援している。その際は事前に利用者へも働きかけ意向を取り入れるように努めている。現在は新型コロナウイルス感染症の影響で外出は控えている。	例年であれば季節の花見やテレビの情報をヒントにして外出支援が行われていますが、現在は感染防止のため、受診や周辺の散歩が外気に触れる機会となっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族との話し合いのもと、立替方式で対応している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話を自由にやり取りができるようにしている。遠方のご家族(長男)から、お孫さんの入園式の写真が送られてきた利用者がいる。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気づくりを心掛けている。玄関、ホール等に季節の飾りつけを行い、行事の写真を掲示している。調理時にブレンダー等の大きな音が出る際は、ひと声かけて対応している。	過度な装飾はなく、利用者の趣味の作品や職員の工夫によるさりげない飾りつけがされています。空気清浄機、温湿度計で清潔な空間となるよう配慮しています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ等配置を考え、個人または気の合うご利用者同士の空間が作れるように配慮している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族の希望を取り入れ、馴染みの生活用品やその他好みの物を使用されている。	ほとんどの方がホームで用意した備品で生活されていますが、家族の写真等を身近に置き、思い出が途切れないように配慮されています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやスロープの設置、浴室に滑り止めマット等を使用し、施設内は段差をなくし安全な環境のもと生活できるよう努めている。		